

メディカルバレー通信

M E D I C A L V A L L E Y P R E S S

2008春号

VOL.12

地域社会に開かれた三重県立看護大学とメディカルバレー



ごあいさつ

三重県立看護大学学長
村本 淳子

三重県のメディカルバレープロジェクトは、産学官民が一体となって次代を担う「医療・健康・福祉」産業の振興を図って、活力ある地域づくりをめざす「みえメディカルバレー構想」を推進すること、つまり人間にとってもっとも大切な「健康」に関する総合プロジェクトですから、今まさに、社会からもっとも期待されていることであると思います。

急激な少子高齢化が進んでいる中であって、人々の健康の維持・増進をどのように進めていったらいいか。それはいかにそれぞれの職種が自らの持っている能力を出し合い、互いに協力・連携して、その役割を人々の健康維持・増進のために効果的に発揮していくことができるかを考えていくことだと思います。一方、健康生活を送る側の人々は、主体的に自らの健康をコントロールし、改善することができるようなプロセスを経ることができるような、つまり人々が自己のヘルスプロモーションの促進者になり得ることができるような行動が今後、期待されるでしょう。

本学は、県民が生涯を通じて安心して暮らすことができるように、そして県民に質の高い看護サービスを提供できることをめざして平成9年(1997年)に看護の単科大学として開学しました。そして開学時から地域社会に開かれた大学をめざして、大学に附属地域交流研究センターを設置し、学生の教育や教員の研究のみならず、地域住民に対して教員の持っている教育・研究・実践能力を生かし、「健康」に対する実践の支援を行ってまいりました。平成21年4月から本学もいよいよ地方独立行政法人化されることとなります。これまで以上に、地域住民のためのヘルスシステムの構築・発展にチャレンジしていくことが求められてきます。

先にも述べましたが、21世紀の健康を考えるとときのキーワードは、「ヘルスプロモーション」で、この概念を取り入れた健康のあり方、支援の方法をさらに構築・発展させていくことが重要です。ヘルスプロモーションの活動の主体は地域住民にあります。そしてその活動は住民のスキルを向上させることによりエンパワーメントし、アドボカシーを高めることです。この概念を重要視し、メディカルバレープロジェクトと、いい形での連携をとりつつ、発展させていきたいと考えております。

産学官による共同研究や研究開発を支援します

メディカルバレープロジェクトでは、産学官による共同研究や研究開発を促進するため、企業を対象とした共同研究の補助や研究者を対象とした委託研究を行っています。平成20年度もこれまでと同様4月に募集を行う予定です。皆様、ぜひご応募下さい。

※平成19年度採択状況は本紙4・5頁の「メディカルバレー推進事業の進捗状況」参照。
平成20年度公募情報については3月下旬、メディカルバレーHP(<http://www.mvp.pref.mie.jp>)から、詳細をご覧ください。

お問い合わせ 三重県健康福祉部薬務食品室 電話:059-224-2331
メディカルバレー推進グループ FAX:059-224-2344

